

# 手をつなぐ

題字 藤本利夫著

〈1988年7月9日創刊〉  
 発行2018年2月1日 〈毎月1日発行〉  
**滋賀県民主教育研究所**  
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目  
 11-3 教育文化会館2F  
 TEL & FAX 077-525-5364  
 教育110番 077-523-3715  
 eメール shiga.minken@gmail.com  
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/  
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)  
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576  
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256  
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

## 自由な時間が人間発達の原動力

本田 清春 (元小学校教員)

私は、現役の時、自由な時間があればもつとゆっくり本が読めるのに、思いっきりスキーや水泳ができるのに、自由な時間を喉が渇くように欲していた。おそらく多くの労働者も同じ思いで今を過ごしていることだろう。教員の一日当たりの勤務時間は、小学校11時間45分、中学校11時間52分(2016年文科省)であるという。働く者の生活は「拘束される時間」と「拘束されない時間」に区分されるが、教員は一日の半分以上の時間が拘束されていることになる。フランスでは、法定労働時間は週35時間、超過労働時間を命じられても一日10時間、週48時間が限度で、これに違反すると罰金刑が課せられると聞く。日本の教員は、戦前の製糸工場の勤務実態で働いているのである。

学校現場の長時間労働が恒常化しているなかでも、教頭職や一部の男性教職員がより過酷な長時間労働を担っている(小学校では一部の女性教職員もみられるが)。その仕事ぶりを評価する人もいるだろうが、本当にそうだろうか。教職員は、教職員同士の結婚の割合が高く、共働き世帯として家族を形成しているが、性別役割分業のメリットを一方的に享受しているのはこうした一部の男性教職員ではないだろうか。長時間労働によって破壊されるのは、心身の健康と生命であり、家族生活であり、社会生活であり、文化生活である。私の伴侶は保育園に勤め長時間労働であったため、私は子どもを保育園に送り、夕方6時までには迎えに行かねばならなかった。これが15年間続いた。振り返って考えると、保育園のお迎えによって家族で夕餉を共にし、保育園・学童保育保護者会役員など社会的活動に参加する機会を得ることができた。これこそが、その後も保護者同士のつながり・交流も持つことができた要因である。

### 《 今月の紙面 》

- ・自由な時間が人間発達の原動力  
／本田 清春 …P1
- ・自分と向き合う図工の時間  
／北川 健太 …P2, 3
- ・どんどん失敗しよう～創作指導を中心にした書の授業／藤居 孝弘 …P4, 5
- ・小学校プログラミング教育と「カリキュラム・マネジメント」／山形 護…P6
- ・中島修さんを悼む～中島修さんの歩みは滋賀の民主教育推進の歴史そのもの  
／吉田一彦 …P7
- ・滋賀の教育動向 9・10月 …P8

私たちはもつと私生活への関心を深める必要がある。自らの個性を發揮するには、自由な時間は欠かせない。自分の時間が奪われたときはお金ではなく、倍する自由時間で返してもらおう。自分を高めるための自由な時間、家事や育児、そして親の介護の時間、大人としての社会的活動、政治活動、地域活動などは労働時間の短縮でしか実現しない。「自由時間が人間発達の原動力」なのである。

(ほんだ きよはる)

